

「やらまいかスピリッツの ま ち 都市 浜松」



浜松市消防長 木下 寿幸

浜松市は、静岡県西部に位置し、四方を海、川、山、湖と異なる環境に囲まれており、四季折々の多様な恵みと景勝が楽しめます。また、年間の日照時間が長く、温暖な気候にも恵まれています。

現在浜松市は、出世の街としてプロモーションを行っていますが、その出世頭は何と云っても、浜松城を居城とし、やがて天下人となった徳川家康公です。29歳から45歳の青年期に浜松城の城主を務め、この地において天下統一の礎を築きました。今川家の人質時代から戦国一と言われた武田信玄公に果敢に戦いを挑み敗北した浜松三方原合戦など、数多の苦難を乗り越え、負けても立ち上がり、様々な経験をバネに何度でも挑戦していく不屈の精神をここ浜松において培っています。その後、数々の浜松城主が江戸幕府の要職に登用されるなど、浜松城は「出世城」と呼ばれ、本市は「大きな夢を掲げ、逆境や失敗をも糧とし、決して諦めずに前進する」という家康公の出世スピリッツが宿っていることから、「出世の街」と呼ばれています。

このスピリッツが、浜松市の「やらまいか」に表される、新しいものに挑戦する気質に富んだ「ものづくり」のまちとして、スズキ株式会社、本田技研工業株式会社、ヤマハ株式会社、株式会社河合楽器製作所、浜松ホトニクス株式会社など、世界的な企業を育み、発展してきました。

「やらまいか」とは浜松市近隣の方言で、「とにかくやってみよう」「やろうじゃないか」という意味で使われています。本市にはチャレンジを大切にする文化が根付いており、やらまいかスピリッツにあふれる創業者や研究者を多く輩出しています。

近年では、2014年10月に、青色LEDの発明においてノーベル物理学賞を受賞した天野浩教授も浜松市出身です。このように出世の街浜松の出世スピリッツは脈々と受け継がれています。

浜松市消防局は、昭和23年の消防組織法制定に伴い浜松市消防署を設置し、職員37人、消防ポンプ車2台の体制から業務を開始し、救急業務も県下で最初に開始しております。平成17年の12市町村による合併を経て、ますます「やらまいか」スピリッツに旺盛な職員890人と、消防ヘリコプター「はまかぜ」1機、消防車両等142台の配備により「いつでも、どこでも迅速的確に対応する消防・救急体制づくり」を基本政策として市民80万人の安全安心を日夜守っています。

近年、巨大地震や火山噴火、集中豪雨による土砂災害など、多くの自然災害が発生しているなか、都道府県や市の枠を超えた広域連携がますます重要となっており、地元の消防だけでなく、あらゆる防災機関の連携強化や、一体となった活動体制の強化が必要不可欠な時代となっています。

そのような中、本市においても、一昨年の御嶽山噴火災害や昨年のネパール大地震には、消防援助隊の一員として、その任を務めさせていただいております。

昭和51年に東海地震説が発表されてから、さまざまな地震対策を講じてまいりましたが、東日本大震災後、平成25年6月に新たな地震被害想定公表により、本市でも津波による多数の被害が想定され、津波対策は最重要課題となっています。現在、津波避難ビルの指定、津波避難マウンド、タワーなどの避難施設の整備を行うとともに、県では海岸線に防潮堤を整備する工事が昨年度からスタートしています。

災害に強い都市づくりを目指し、「やらまいか」スピリッツのもと、今後においても市民の安全安心を守るため万全を尽くしてまいります。